

家族性高コレステロール血症診断におけるアキレス腱撮影方法に関する検討

□背景家族性高コレステロール血症ヘテロ接合体診断基準の一つに、アキレス腱撮影での肥厚測定が定められている。動脈硬化性疾患予防ガイドライン(2012 年度版)では撮影条件等が規定された。本稿では、従来の評価方法とは異なり画像のデジタル化と画像参照方法の電子化に対応された方法となっている。□目的本ガイドラインを活用し詳細なアキレス腱撮影方法について検討を行うこと。□方法 1. ガイドラインに準拠した撮影法についての検討。2. 補助具の有無による測定値精度の検討。3. 画像参照システムを中心に考えたデジタル X 線画像撮影装置間での相違についての検討。4. アキレス腱肥厚描出に関係する画像処理パラメータの検討□結果 1. ガイドラインに準拠した撮影法では、経験年数に関係なく撮影体位や測定値のばらつきを認めた。2. 補助具有りで撮影体位のばらつきが小さくなり測定値の再現性が高い結果となった。3. 同一撮影距離においてもデジタルシステムの違いにより拡大率が異なる結果となった。4. 皮膚表面、アキレス腱辺縁、脂肪組織が明瞭に分離できかつ微小石灰化が認識できる画像処理パラメーターの構築が必要であると考えた。□結論現状の家族性高コレステロール血症診断におけるアキレス腱撮影方法における問題点を把握することができた。また、測定精度が高く汎用性のある撮影方法を確立することができた。